

横浜能楽堂 令和4年度指定管理業務評価（外部評価）

	張委員	諸貫委員	横山 太郎委員	横山 直子委員
(1) 文化事業	<p>【評価する点】</p> <p>コロナによる影響を除いて、ほぼすべての公演が完売した実績は、来場者に対するアプローチが機能している何よりの証拠です。</p> <p>子ども向けの事業は人気ようです。順調に客層が拡大していることについて、評価できます。</p> <p>ソーシャル・メディアを使った発信はぜひ今後も続けていただきたいです。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>公演後の解説は様々な角度から「見方」を説明しているため、内容が充実しており、面白いです。なんらかの形で、外国の方にも伝わるような工夫を期待しております。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>自主事業について、企画性の高いもの、普及目的のものをバランスよく実施でき、入場者についても新型コロナの影響を概ね脱することができたことを評価します。</p> <p>バリアフリー能について、現状に満足することなく新たな工夫を積極的に模索していることを評価します。</p> <p>子ども狂言ワークショップの継続を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>ワークショップのニーズが大きいなら楽器を充実させるなど、一層の対応を求めます。</p> <p>休館中のアーカイブ事業の充実を期待します。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>「三老女」「能役者 鶴澤久」といった意欲的な企画を実現した点、それらの券売率が100%であった点、普及公演でネットを通じた広報の工夫をおこなった点などは、横浜能楽堂の企画力の高さを示すものとして高く評価できる。子ども・教員を対象とした事業を、コロナ第7波のなかで堅実に実施した点も評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>解説動画と字幕が鑑賞体験を向上させることが明らかのものである。特に字幕は、安価で現場に負担の少ない方法を標準化してはいかがか。いわゆる人気曲以外を公演して券売率が60%代であったケースについては、公演の意義は高いので、広報の工夫をこらしつつ今後も積極的に多様な曲を上演していただきたい。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>第7波など、直接的なコロナ禍の影響が及んでいない開催期間に実施されている事業は、概ね目標値を達成している。</p> <p>幅広い層に遡及する取り組みを実施している。</p> <p>目標値の達成状況および参加者の満足度から、機を捉えて来場者の関心を汲んだ事業を実施されていると評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>層を絞った企画を主軸として、様々な集客アプローチから裾野の拡大に貢献したものと拝察します。</p> <p>新規顧客の定着なども視野に入れた、今後の展開に期待します。</p>
(2) 施設運営	<p>【評価する点】</p> <p>視覚障害者に能楽師の身体に触れてもらったりするといったユニックな取り組みは、ぜひ今後も継続していただきたいです。</p> <p>皆様の柔軟な発想に感心しています。</p> <p>施設を最大限に活用していただけるよう、創意工夫を凝らして、取り入れられている様々な仕掛けから、施設運営側の熱意と努力が伺えます。</p> <p>入場者に対して、きめ細かくかつ、柔軟な対応を実行できたのは、組織が機能している証拠です。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>公演と、能や狂言の解説を英語の字幕付きでネットで配信してはいかがでしょうか</p> <p>割引料金の利用が少ない気がします。原因を特定し、改善を期待しています。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>利用促進への様々な取り組みを行っていることを評価します。</p> <p>残念ながら利用料金収入は目標を達成できませんでしたが、利用件数はコロナ以前に回復していることは喜ばしいです。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>施設利用については、ニーズの把握に努めるなど、再開館時には多くの利用をもたらすよう、効果的な取り組みを期待します。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>施設の空き状況の公開は、施設利用促進の観点から高く評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>特になし。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>施設の空き状況の公開、休館の間合せ対応など、利用者ニーズに配慮した取り組みをされています。</p> <p>バリアフリー施設見学会など、普及公演にとどまらないバリアフリーへの対応を着実に実施しています。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>休館の間合せについては、改修後の集客に繋がるような仕組みを検討することを期待します。</p>
(3) 来館促進 プロモーション事業	<p>【評価する点】</p> <p>近隣施設との連携事業であったり、地域住民との交流であったりすることから、ウィンウィン関係が伺え、ぜひ続けていただきたいです。</p> <p>以前よりも積極的にSNSを活用している点について、評価できます。このような新しいアプローチから、ぜひ新しい客層の獲得に繋がってください。</p> <p>積極的に「大学」を活用してプロモーションをしている点について、評価できます。ぜひこの経験を活かして、大学の数を増やして、積極的にプロモーションをしていただければと思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>コロナの収束と円安で訪日客が増加しています。Nohgakudo for Everyoneの再開を期待しています。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>SNSによる発信など来館を促すための取り組みが実施されていることを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>休館に向けて、より一層の情報発信を期待します。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>SNSによる発信や、バリアフリー見学会はじめとする各種見学会など、来館促進の努力を評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>「紅葉ヶ丘まいらん」のより有機的な連携が期待される。能楽堂が、恒常的に人が訪れて回遊する文化地区の一部となることが理想なのだ理解している。管轄する組織間の温度差など、ままならない事情があることも理解するが、この理想に向けて少しでも前進していただきたい。行政に対してはこの地区への交通アクセスの改善も引き続き期待したい。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>SNSやオンラインでの意欲的な情報発信を継続されることでリーチを伸ばすものと評価します。</p> <p>和のワークショップの開催や地域を対象にした事業、施設間での連携事業等の取り組みは、ファンの裾野を広げると共に、事業に取り組むことで、横浜能楽堂の新たな魅力の発見に繋がるものと拝察します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>学生や外国人の目線を通した紹介など、ボランティアやファンの手をかりることも視野に入れ、付加をかけずにPRする手法があれば、ぜひご検討ください。</p>

横浜能楽堂 令和4年度指定管理業務評価（外部評価）

	張委員	諸貫委員	横山 太郎委員	横山 直子委員
(4) 施設管理	<p>【評価する点】 全体的には目標通りに実施し、目標を達成しています。その実行力に評価できます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 今後も横浜市と積極的にコミュニケーションをとりながら、施設を管理していただければと思います。</p>	<p>【評価する点】 保守及び防災に関する業務が適切になされていることを確認しました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】 適切に管理運営されている。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特になし</p>	<p>【評価する点】 大規模修繕を控え、優先順位を見極めながら修繕の最適化に取り組まれています。 限定的な修繕対応にもかかわらず、緊急修繕等も発生していないことから、日々適切な維持管理が実施されているものと評価できます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 予定する必須の改修内容と併せて、大規模改修の機会に実施することが効果的・効率的と見込まれる改修があれば、市とご調整下さい。</p>
(5) 収支	<p>【評価する点】 物価増や光熱費の高騰によって、費用は増加していますが、公演が好調で、健闘している方だと思います。 限られた予算で、将来に繋がる種まきをバランスよく実行しているマネジメント力を高く評価できます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ショップの運営を開始しており、物販による収入増をもたらす仕掛けを期待しています。</p>	<p>【評価する点】 光熱水費の大幅な増加にも、入場料収入の増加や経費節減により対応できていることを評価します。 助成金の獲得も評価できます</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】 安定的に予算執行されていると認められる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】 「利用料金収入」「自主事業収入」および「利用料金収入と自主事業収入の収入合計に占める割合」共に昨年度と比較して高い伸びを達成しています。</p> <p>記録的な光熱水費の高騰が目立つ中、人件費、修繕費の抑制に取り組まれている点を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 物販においては購買層のニーズを逃さず、売り上げにつながる工夫を講じることを期待します。</p>
その他		大学との連携を実施できている点を評価します。	アーカイブ整備と財団他事業との連携に向けた動き、バリアフリー能の研修、地域の大学との連携など、いずれも能楽堂の機能を高めていく取り組みとして高く評価できる。	
総括	予算内で施設の運営・管理をしつつ、プロモーション事業を通じて来館者へのアプローチを行い、文化事業の普及かつ収入増を狙うという堅実かつ確実なマネジメント力は、ぜひこれからも継続していただきたいです。	指定管理期間の初年度を着実に管理運営できたものと評価します。 今後、休館にむけて、自主事業をどこでどのように行うのか、また貸し館利用者への案内をどのように行うのか、早めに情報発信されることを希望します。	令和4年度は、舞台芸術界全体もコロナ禍から脱却しつつある時期ではあったが、第7波の影響などで依然として苦しい状況も存在した。そうしたなか、横浜能楽堂は公演事業、教育・普及事業、施設運営のいずれの面でも順調に活動を回復させ、今後の充実した事業展開の地盤固めに成功したと評価できるだろう。	ニーズを汲んだ企画の立案や新たなサポートメニューの展開など、これまでの息の長い活動やコロナ禍での準備が、高い券買率や満足度につながったものと評価します。 コロナ終息以降、文化芸術をリアルに鑑賞したいというニーズが高まる中、機を逃さず引き続き魅力的な事業を継続するとともに、大規模改修にもむけ、横浜能楽堂ならではのしまい方・改修後の期待を高揚させるような取り組みに期待します。

令和4年度 横浜能楽堂 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
(1)文化事業	指定管理者提案	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
能楽愛好者の期待に応える特別公演シリーズや、新しい観客の創造も図る普及公演、オンラインを活用した事業等への取組【使命1】	【普及公演】 普及公演「横浜狂言堂」 普及公演「狂言 伊文字 能 融」(解説動画ネット配信・上演時字幕配信) 普及公演「眠くならず楽しめる能の名曲」 普及公演「バリアフリー能」	毎月第2日曜日 全12回 □券売率 実売数/販売座席数 □入場者数	全12回 85% 4,956名	実施 80.1% 4211名	コロナの感染状況が、観客の購買意欲に大きく影響を及ぼしました。コロナが落ち着くとともに、券売率は徐々に回復しています。 狂言師のドキュメンタリー映像のリリースや、狂言堂終演後毎に狂言や公演にまつわるツイートなどSNSを利用した広報を行い、多くのリアクションを得ました。	横浜能楽堂ならではの企画性の高い事業や、より多くの人に能楽の魅力を伝える普及公演までバランス良く実施しました。 公演事業については、コロナの影響は概ね脱し、多くの公演でチケットが完売となりました。三老女などの、料金の高い公演も完売したため、入場料収入はR4年度予算及びR3年度実績よりも大きく増加しています。 個別の事業では、「三老女」シリーズや「鶴澤久」公演でその企画性の高さが話題となりました。三老女は、出演者の変更など開催まで困難がありましたが、当代の人間国宝を揃えた公演ができたことは大きな成果となりました。鶴澤久公演は、実験的な内容に取り組んだことに評価を得ることができました。 その他の公演の集客は明暗が分かれました。今後、公演の目的、ターゲットなどを明確にし、的確な広報活動を行うことで、集客に繋がっていきます。 普及公演で行った解説動画、字幕などは、効果を検証しつつ継続していきます。 当初予定していなかったAFFの助成金を受けられたこともあり、プロによる若手狂言師の活動を紹介する動画を製作し、YouTubeチャンネルで公開しました。Twitterと連動し、視聴回数を増やすクイズキャンペーンなどを実施し、より多い再生回数を目指しました。	【評価できる点】 ・新型コロナウイルス感染症の影響下で、様々な企画を立案し、動画やSNSなどの手法を併せて使用し利用者へ能楽の興味、関心を得るための取組について、評価できます。 ・助成金を利用して、動画配信を利用し若手狂言師のPR活動や字幕の解説を行い、来場者へわかりやすく、能や狂言等の文化に親しみをもちやすい取組をされたことも確認できます。 ・各公演の券売率が高いとともに、初めて能や狂言等を触れる人から、常連の人も楽しめる公演構成をされており、入場者を増やす工夫をしていることが確認できます。 【更なる取組を期待する点】 ・チケットが完売となった公演がある一方で、新たな集客を得るためのニーズ分析が必要となります。来場者アンケートによる公演についてのご意見を確認しつつ、更なる来場者を得られることを期待しています。 ・新型コロナウイルス感染症による影響下の中、多くの子どもたちへ能楽を中心とした体験する機会を引き続き取り組むことを期待します。小学校については近隣だけでなく横浜市内の他区へもアプローチしており、次世代へ繋がる取組を確認できます。 また、横浜市中央図書館との協力のもと、授業で学ぶ内容を実際に体験することは子どもたちの古典芸能へ興味を持つきっかけとなり、将来的にも繋がる活動となりますので、継続的な実施を期待します。 ・鶴澤久公演のように、実験的なイベントに取り組んでいることは施設のプレゼンス向上のためにも必要なことだと考えられます。今後も同様の創造性の高い取り組みに期待します。
		9月17日(土) □券売率 実売数/販売座席数 □入場者数	実施 75% 388名	実施 66.7% 296名	開催期間がコロナ第7波と重なっていたこともあり、券売に苦戦しましたが、Youtubeで配信した解説動画や、当日の字幕解説が分かりやすかったと好評でした。		
		12月25日(日) □券売率 実売数/販売座席数 □入場者数	実施 75% 388名	実施 100.0% 454名	公演タイトルの新しさや、公演内容、チラシの華やかさに引かれた鑑賞初心者から、毎年この公演を楽しみにしているリピーターまで、幅広い客層がチケットを購入し完売となりました。 芸術監督の話がわかりやすくと好評でした。		
		3月21日(火・祝) □券売率 実売数/販売座席数 □入場者数	実施 75% 364名	実施 79.0% 441名	販売座席数を100%にして実施しました。福祉団体に幅広く広報を行い、チケットも完売となりました。新たに、①送迎車、②ユニボイス、③「バリアフリー施設見学会」での能楽師の身体を触って理解する試み、④「なんでもシェア会」の開催の4つのサポートを導入し、実施しました。鑑賞サポートがあったから参加できたという声もあり、意欲ある公演となりました。		
		全3回 □券売率 実売数/販売座席数 □入場者数	実施 80% 1,164名	実施 100.0% 1388名	能の最高秘曲とされる「三老女」の3曲を連続して上演。一曲だけでも上演機会の少ない曲をまとめて鑑賞する機会は稀なため、チケットは早々に完売しました。当代一流の演者による見ごたえのある上演内容に、来場者からも多くの好評の声が寄せられました。		
	【特別公演】 能・狂言の作品の中で「大曲」「秘曲」と言われるような見ごたえのある曲を、現代を代表する一流の演者がその曲を演じるに最もふさわしい時をとらえて最高の舞台を実現する公演	特別公演「三老女」	11月6日(日) □券売率 実売数/販売座席数 □入場者数	実施 80% 388名	実施 63.0% 274名	広報期間がコロナ第7波と重なっていたことなどにより、券売率・入場者数ともに目標に達しませんでした。これまで横浜能楽堂の公演で上演機会のなかった珍しい作品を取り上げました。能狂言ともに能楽師親子三代が出演し、子方の奮闘が光ったこともあり、来場者の満足度は高いものとなりました。	
		特別公演「語 朝比奈 狂言 花争 能 昭君」	9月3・4日、全2回 □券売率 実売数/販売座席数 □入場者数	実施 80% 776名	実施 81.6% 697名	沖縄の本土復帰50年を記念して、琉球芸能を代表する組踊と琉球舞踊を2日間いわたつて上演、またロービーでは横浜能楽堂での琉球芸能公演のパネル写真展も開催しました。 第2日目は秋篠宮ご夫妻のお成りがあり、メディアにも多数取り上げられました。	
	【企画公演】 芸術・学術性があり、創造・発信性の高い公演	企画公演「男の組踊 女の舞踊」	2023年2月5日(日) □券売率 実売数/販売座席数 □入場者数	実施 80% 388名	実施 100.0% 486名	女性能楽師の鶴澤久が大曲「卒都婆小町」を上演することや、一柳慧の現代音楽作品や高村光太郎の詩を詞章とした舞囃子を取り上げたことが話題となりチケットは完売しました。研究者や評論家からも公演内容について好評でした。	
		企画公演「能役者 鶴澤久」	6月26日(日) □券売率 実売数/販売座席数 □入場者数	実施 80% 388名	実施 81.1% 344名	横浜能楽連盟と共催。狂言「舟渡聲」能「田村 替装束」を上演しました。能シテは横浜市在住の岡本勇雄師。	
	【その他公演】 能楽愛好家団体「横浜能楽連盟」やふるさと西区推進委員会、西区役所との共催で開催する公演	第69回横浜能(共催:横浜能楽連盟)	10月2日(日) □券売率 実売数/販売座席数 □入場者数	実施 未定 未定	実施 89.2% 396名	ふるさと西区推進委員会、西区役所主催。公演運営、広報協力を行いました。	
		第39回横浜かもんやま能(共催:ふるさと西区推進委員会、西区役所)	R5.1月19・26・2/9WS、2/11発表会 参加者数	実施 10名	実施 21名	「3日でマスター! 能の囃子(太鼓)編 太鼓のお稽古と発表会」として開催。定員12名のところ、多数の応募があり、時間を拡大して参加者を21名に増員して実施しました。	
	【ワークショップ/講座事業】 能楽師等を講師とした仕舞や狂言などを体験する大人向けのワークショップや能楽への理解を深める講座	おとな狂言ワークショップ(1回 全3日間) 参加者数	R5.1/31、2/14、2/24 参加者数	実施 16名	実施 30名	定員25名のところ、39名の応募があり、30名に拡大して実施しました。	
		能楽師が案内する横浜能楽堂と能楽体験ワークショップ(各回全3回、2種) 参加者数	10/15太鼓方、10/29狂言方 各回3回 参加者数	実施 120名	実施 73名	太鼓が4丁なので定員を各回12名で開催しました。狂言については密集を避けるために定員を15名に変更したため、参加者数が目標を下回りました。	
		芸術監督による能楽入門講座(全2回) 参加者数	①11/19「能に登場する女性たち」②2/18「能に登場する女性たち2」 参加者数	実施 100名	実施 176名	内容を工夫し、能楽初心者や能楽堂に来場したことのない人に能に親しむ機会を提供しました。能に馴染みがない人に内容を伝えるようチラシを作成しました。	
	【展示事業】 能楽に関する基本的な知識を学べる「常設展」と企画公演の内容と連動した「特別展」を実施	「特別展」(展示/「三老女」関連展示) □入場者数	4~6月 □入場者数	実施 3,000名	実施 2,316名	新型コロナウイルス感染症対策のため、内容を変更し、企画公演「男の組踊 女の舞踊」に併せて、これまで横浜能楽堂で開催した琉球芸能の公演写真をパネル展示しました。 開催期間が短くなったため、入場者数は目標に達しませんでした。	
「常設展」(展示/全2期) □入場者数(施設見学、WS等)		7~12月、1月~3月 □入場者数(施設見学、WS等)	実施 4,500名	実施 2,187名	常設展「初めての能・狂言」を実施しました。一般見学を行っていないため、公演日や見学実施日のみの公開となり、目標に達しませんでした。		
【アーカイブ事業】 古典芸能上演の記録として整備	過去の公演記録、映像の公開	公演記録の整理、公開	実施	実施	過去の記録を整理しました。引き続き公開を行います。		

令和4年度 横浜能楽堂 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

次世代育成として子どもたちの創造性を育む公演やワークショップ、学校や教員と連携した事業を実施【使命2】	子ども、教員を対象とした事業	子ども狂言堂	7月31日(日) □券売率 実売数/販売座席数	実施 90%	実施 91.8%	券売率は目標を達成しましたが、入場者数は、開催時期がコロナ第7波と重なっていたことなどにより、来場を控えた人も多く、目標を下回りました。教科書にも載っている「柿山伏」や、内容が分かりやすい「神鳴」を上演したこと山本東次郎さんが作品だけでなく、狂言の歴史や、日本人が培ってきた精神性なども合わせて解説したことが好評でした。
		幼児向けお話し会	8月6日(土) 伝統文化一日体験オープナー □参加者数	実施 30名	実施 30	横浜市中央図書館の協力により開催。実施会場を研修室にしたため、定員を①11:30~12:00(対象4~6歳)定員6組12名、②13:30~14:00(対象小学1~4年生)定員8名で実施しました。
		先生のための狂言講座	7月31日(日) □参加者数	実施 100名	実施 87名	申込は100名を越えましたが、開催時期がコロナ第7波と重なっていたことなどにより、来場を控える人も多く、目標に達しませんでした。参加者からは、山本東次郎さんのお話や講座後の施設見学などに高い関心が寄せられました。
		子ども狂言ワークショップ入門編(全3日間)	8月1日(月)・3日(水)・4日(木) □参加者数	実施 16名	実施 23名	広い本舞台を会場とし、グループごとに体験を行うなど、感染症対策を徹底して行いました。
		子ども狂言ワークショップ卒業編(全10日間)	12月~3月 □参加者数	実施 5名	実施 4名	「入門編」から参加者を募るため4名にとどまりましたが、少人数で集中して稽古を行いました。プログラム終了後、参加者4名のうち3名が「いろはの会」での継続を希望し、長期的に狂言に親しむ層を着実に育てる機会となりました。
		横浜子ども狂言会	3月26日(日) □参加者数	実施 100名	実施 101名	「子ども狂言ワークショップ~卒業編~」参加者4名と同ワークショップ卒業生有志からなる「いろはの会」17名の計21名で、8曲の狂言を披露しました。
		夏休み子ども相談会	8月 □参加者数	実施 20名	未実施	コロナ第7波のため、実施を見合わせました。
		横浜市芸術文化教育プラットフォーム 学校プログラム	(調整中) 5校 実施校数	実施 □3校程度	実施 5校	狂言の鑑賞と体験を3校、雅楽の鑑賞と体験を1校、和太鼓の体験と発表会を1校、計5校で実施しました。
		狂言「柿山伏」動画関連事業	新規取組 ※R4-5で累計3件	実施	(準備中)	次年度に実施予定

子ども向け事業については粛々と実施しました。同じことを着実に続けていき、切れ目ない次世代育成をはかっています。ただ、多くの事業が集中する夏休み期間に、コロナの第7波がきたことで、参加の自粛がみられました。

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
(2)施設運営	指定管理者提案	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
能楽や古典芸能の公演、稽古等への施設の提供【使命3】	1 施設の基本的な提供	■開館時間9:00-22:00	実施	実施	適切に実施しました。	施設の空き状況のホームページでの公開を開始しました。施設の貸出のオペレーションを、新規配属職員でも分かるように整理しました。令和6年1月から休館を迎えるため、既存顧客のケアや、問い合わせがあったものに対応しました。バリアフリー能に先立ち、バリアフリー見学会を実施しました。足袋を履いて舞台上がってもらい、舞台空間や音の響きなどを体感してもらったり、能楽師の身体に触れてもらうことで動きを体験してもらう試みを実施しました。	【評価できる点】 ・施設の空き情報をホームページ上で公開したことは、利用者に配慮しており、施設運営にとって大きな取組であると窺えます。 ・あらかじめ休館を迎えるにあたり、既存利用者への問い合わせに対応していることは、利用者の立場に沿った対応と確認できます。 ・バリアフリー見学会の取り組みについては、普段能楽堂に足を運ぶ機会が少ない方やこれまで馴染みがなかった方にとっては、貴重な経験であり、新規来場者獲得への取組であると評価できます。 【更なる取組を期待する点】 ・令和6年1月からの休館を迎えるにあたり、事業の実施方法等に向けてどのように行うか検討が必要ですが、今まで培ってきた方法で工夫を行い、対応できるようになると期待しています。
		■利用受付等対応時間9:00-20:00	実施	実施	適切に実施しました。		
		■能・狂言の利用を優先して受付	実施	実施	適切に実施しました。		
	2 相談対応	■能楽以外の公演利用の場合、能舞台の特性を十分に説明	実施	実施	適切に実施しました。		
		■ロビー・楽屋に「意見箱」を設置	実施	実施	設置し、いただいた意見については対応を検討しました。		
	3 施設の利用促進に対する取組およびプロモーション	■施設空き状況のホームページでの公開	実施	実施	4月より、適切に実施しました。		
		■本舞台の1時間単位のお稽古利用の広報	実施	実施	チラシ送付。過去来館者へのDM1回(10月1249通)、友の会会報への同封発送1回(9月577通)、公共施設等(9月221箇所)。		
		■撮影/アフターコンベンション等の利用への積極的な対応	実施	実施	適切に実施しました。		
		■能楽鑑賞会等のプランによる利用提案	実施	実施	適切に実施しました。		
		■発表会の場としての第二舞台利用提案	実施	実施	適切に実施しました。		
		■研修室、楽屋の個人向け貸出の推奨	実施	実施	適切に実施しました。		
	4 利用を促進する貸館向け施設見学会や各種割引料金の設定	□貸館向け施設見学会	2回	休館のため 実施見合わせ			
		■各種割引料金の利用推奨	実施	実施	初めての朝割4件、初めてのU25割1件、応援割3件の利用がありました。		
	5 「バリアフリー能」でのサポート開発、バーチャル見学会等の取組を実施。	【再掲】 ■普及公演「バリアフリー能」	実施	実施			
		□バリアフリー施設見学会	□2回	実施	今年は、視覚障がいのある方に能楽師の身体に触れてもらうことで、理解を深めていただく試みを新たに実施しました。参加希望人数が多かったため、2日間で3回実施。当事者20名、介助者11名、合計31名が参加。		
■オンラインコンテンツ「おうちで楽しむ能楽堂」		提供	実施	今年度のバリアフリー能公演の映像を、①音声ガイド・字幕付き、②字幕付きの2種類で配信しました。			
■英文公演解説の配布		公演時実施	実施	能・狂言を上演するすべての公演で英文解説を配布しました。			

令和4年度 横浜能楽堂 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価		
(3) 来館促進 プロモーション事業	指定管理者提案	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
能楽堂の雰囲気を活かしたワークショップやオープンデー、多彩な見学会など能楽堂の魅力を伝える事業【使命4】	1 広報活動の強化により能舞台の文化的価値や横浜能楽堂の魅力を更に発信	□メールニュース配信	毎月1回	実施	告知時期を調整し、年12回配信しました。	来館を促すための事業を実施し、毎回初来館者を呼び込みました。能楽関係だけでなく、オープンデーや和のワークショップを実施し、幅広い層にアプローチしました。また、公演や能楽堂周辺の季節の情報など、Twitterを中心に発信しました。できるだけ写真を添える形として、インプレッション数を増やすようにしました。定例の施設見学会は、職員の輪番制で毎月実施し、職員のガイド力の向上も図りました。	【評価できる点】 ・来館を促すためにSNSを利用して、目標を上回るアプローチを行ったことが確認できます。 ・定例見学会やバリアフリー見学会の取り組みを行い、多数の見学者が参加していることが確認できます。幅広い人達が有形文化財である能舞台を知るきっかけになっていることが伺えます。  【更なる取組を期待する点】 ・様々な機会を通じてアプローチを行っており、複数のSNSを発信しているため、今後は動画の作成を着実に進めていただくことを期待します。	
		■施設紹介動画の作成	実施	未実施	公式的な動画作成・公開には至りませんでした。トリアル版を作成し、次年度に向けて準備を行いました。			
		□SNSによる発信	200回以上	Twitter:232 Facebook:6	公演や休館日告知だけでなく、近隣や貸館公演、財団他施設の活動なども取り上げてツイートし、目標回数を達成しました。			
	2 能楽堂の雰囲気を活かした和のワークショップやオープンデーを開催し、能楽や能舞台への関心を高める。	■和のものづくりワークショップと能楽堂見学(2種4回)	実施	実施	実施			「着物をほどこ」と横浜能楽堂舞台見学2回合計28名、「袱紗を縫う」と横浜能楽堂舞台見学2回合計28名の参加がありました。 ※再掲
		■伝統文化一日体験オープンデー(1回)	実施	実施	実施			
	3 横浜市の有形文化財である能舞台を案内する多彩な見学会を開催する。実施日や参加方法を工夫し、多くの方の見学会参加を促し、地域の文化資源を紹介。	■定例見学会(全9回)	実施	実施	実施			10回実施しました。合計117名の参加がありました。
		■特別見学会(1日2回 全3日間)	実施	実施	実施			8月27名、3月2回合計102名の参加がありました。
		■バリアフリー見学会(全2回)	実施	実施	実施			※再掲
		■Nohgakudo for everyone(1日2回)	実施	未実施	未実施			コロナ感染症の影響により、海外訪日客が見込めないこともあり、今年度の実施は見送りました。
		■近隣町内会対象見学会(全2回)	実施	実施	実施			井戸端会議32名、野毛町なかキャンパス11名の参加がありました。
		■オンラインコンテンツ「おうちで楽しむ能楽堂」(再掲)	提供	提供	実施			※再掲
	4 ユニークベニューやMICE、撮影などの受け入れを工夫し、利用につなげる。	■利用料金のパッケージプランの提案	提供	提供	実施			※再掲
		■撮影利用へ積極的に対応	提供	提供	実施			※再掲
	5 ロビーや旧レストランなどを有効活用し、蔵書公開や能楽堂の紹介展示を行い、交流を促す。	■古典芸能に関する書籍や資料の公開	実施	実施	実施			1階ロビーで書籍閲覧を可能としていますが、一般見学を中止していることもありご利用はありませんでした。
		■能楽堂の由来や特色、沿革等を紹介する展示	実施	実施	実施			2階展示廊常設展「能・狂言の世界」で能楽に関する基礎知識を、毎月の施設見学で能舞台の由来や特徴などを紹介しました。
		■公演映像を使った能楽の紹介	実施	実施	実施			YouTubeチャンネルで随時動画を公開しました。
	6 近隣文化施設5館で構成する「横浜・紅葉ヶ丘まいら」で地域全体の広報活動を行う。	■紅葉ヶ丘エリアの一体的な広報活動の実施	実施	実施	実施			毎月1回以上の会議に出席し、3月4日の連携事業では、町内会掲示板への事業チラシ掲載を行いました。
		■各施設間での連携事業の実施	実施	実施	実施			オープンデーは神奈川県立音楽堂と同日開催の他、県立青少年センターと横浜市中央図書館と連携し、事業実施しました。和のワークショップは横浜市民ギャラリーとの連携で実施しました。

令和4年度 横浜能楽堂 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価		
(4)施設管理	指定管理者提案	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
経年劣化や不具合に適切に対応し、安心・安全な施設を維持【使命5】 【使命6】	1 安全で快適な施設としての維持	(1) 維持管理の基本方針	■保守・点検を確実に遂行	実施	実施	業務の基準に則り適切に実施しました。	新型コロナウイルス対策は、ガイドラインに沿って適切に対処しました。防災訓練は、全職員を対象に2回実施しています。施設の維持管理は、委託業者とともに適切に取り組みました。修繕は、大規模改修の前に対応が必要なものから取り組んでいます。消火器の更新を行いました。	
			■専門業者に継続して委託	実施	実施	同上		
			■法令の遵守	実施	実施	同上		
			■日常的に状態を精査	実施	実施	同上		
		(2) 修繕	■小破修繕の適切な実施	実施	実施	同上		
			■不具合懸念箇所のリスト化	実施	実施	大規模改修項目に即して所管課に共有しました。		
			■修繕優先順位付け	実施	実施			
			■緊急修繕に速やかに対応	実施	実施	館運営に関わる緊急修繕は発生しませんでした。		
		(3) 防災・防犯等	■防災訓練の実施	実施	実施	訓練内容を工夫(発火場所を変更/充電器爆発による負傷・火災)して実施しました。		
			■駐車場事故防止	実施	実施	事故は発生しませんでした。		
			■施設損害賠償保険への適切な加入	実施	実施	適切に実施しました。保険適用の事例はありませんでした。		
		(4) その他、安心、安全な施設運営	■新型コロナウイルス感染拡大防止等感染症対策	実施	実施	市のガイドライン等に即して適切に対策を講じました。		
			■AEDの配置	実施	実施	B1事務室及び1階受付の2カ所に設置しています。		
			■全員が救急救命講習を受講	実施	実施			
				実施	実施			
		評価項目		令和4年度計画		実施状況		
(5)収支	指定管理者提案	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
助成金など指定管理料以外の収入の確保と徹底した経費削減【使命5】	1 利用料金収入等の獲得努力(再掲)	■施設空き状況のホームページでの公開	実施	実施	※再掲	通常の貸館の施設利用とは別に、プライベート施設見学会の問い合わせに積極的に対応し、R3年度の6件から12件と、件数が倍増しました。本舞台の利用が入りにくい平日の日中に開催されるため、空き施設の活用による収入の増加に結びついています。自主事業は、一部公演の集客が振るわなかったため、目標に達しませんでした。多くの公演で完売し、補助席を販売した公演も出ました。コロナ禍で休止していたショップの運営を公演時に再開し、利益を得ました。	【評価できる点】 ・プライベート施設見学会を積極的に対応し、件数が増加していることは、空き施設の活用を有効に活用するとともに、収入の増加にも結びついていることは評価することができます。	
		■本舞台の1時間単位のお稽古利用の広報	実施	実施	※再掲			
		■/アフターコンベンション等の利用への積極的な対応	実施	実施	※再掲			
		■能楽鑑賞会等のプランによる利用提案	実施	実施	※再掲			
		■発表会の場としての第二舞台利用提案	実施	実施	※再掲			
		■研修室楽屋の個人向け貸出/の推奨	実施	実施	※再掲			
		■貸館向け施設見学会	実施	休館のため実施見合わせ※再掲				
		■各種割引料金の利用推奨	実施	実施	※再掲			
	2 ユニークベニュー利用・撮影利用等の誘致	■「ユニークベニュー」としての能楽堂の売り込み	実施	実施	ホームページでの案内を継続。コロナ禍の継続により積極的な売り込みは控えました。			
		■横浜フィルムコミッション等を通じた撮影利用の誘致	実施	実施	利用希望がありませんでした。			
		■実例紹介動画によるウェブ販促	実施	未実施	MICE動画作成勉強会に参加しました。			
	3 自主事業収入の確保	■公演趣旨に応じた料金水準の設定	実施	実施				
		■85%以上の券売率	実施	81.6%				
		■補助席の販売	実施	実施	2/5企画公演で実施しました。			
		■友の会制度	実施	実施	毎月会報を発行。会員数は減少傾向。			
		■メール会員制度	実施	実施	チケットシステムでの購入者のうち、希望者約5000名に対して配信。			
	4 助成金収入の獲得	■文化庁等助成金獲得	実施	達成				
	5 事業協賛金、寄附金の獲得	■企業からの協賛金、寄附金を獲得	実施	達成	少額ながら継続的にご支援くださる方がいらつしや、また今年度は使途を限定しない寄附をバリアフリー能で活用させていただきました。			
	6 経費削減・効率的運営に向けた取組	■入札/見積合わせによる発注価格の抑制	実施	実施	適切に実施しました。			
		■印刷物発注数量の見直し	実施	実施	適切に実施しました。			
		■継続した省エネルギーへの取組	実施	実施	暖房期に向けて、空調の運転時間・対象エリアの見直しを行い、エネルギー経費削減に努めました。			
		■利用状況に応じた職員勤務時間の設定	実施	実施	夜間利用時の選番対応などきめ細かく対応しました。			

令和4年度 横浜能楽堂 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価				
(6) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価	指定管理者提案	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価			
1 市の重要政策課題への対応	1 日報、月報の作成・管理	□業務日報の作成	実施	実施	適切に実施しました。	適切に実施しました。				
		□管理運営月等をモニタリングにおいて報告	実施	実施	適切に実施しました。					
		□事業計画書・事業報告書の作成	実施	実施	適切に実施しました。					
	2 事業計画書・事業報告書の作成・管理	□事業計画に沿って成果が見える報告書を作成	実施	実施	完了確認表をモニタリングで提出しました。					
		業務評価の実施	□自己評価	実施	実施			・仮決算の状況をモニタリングで報告しました。 ・年度終了時の各種報告書を作成しました。		
	(7) その他	指定管理者提案	取組内容	目標	実績			説明	自己評価	行政評価
	1 市の重要政策課題への対応	1 個人情報保護についての取組	■当財団の定める「個人情報保護方針」等に基づき適切に対応	実施	実施			適切に実施しました。	<p>今年度は、人材育成に力を入れました。財団の専門人材研修を当館が担当し、「アーカイブ」のテーマに沿って、支配人、2人のプロデューサーとともに講師の人選、内容の検討を進め実施しました。当館のアーカイブ事業を進めるために必要な課題の抽出を行い、契約書への記載の追加を行いました。また、アーカイブの課題を話し合うため、財団内のプロデューサー5人で話し合う機会を作り、今後の他施設との事業連携に向けた信頼関係の構築に繋がりました。</p> <p>バリアフリー能に向けて関係者へ研修を行い、当日の持ち場での取り組みなどを研修することで、来場客への配慮や今後の更なる取組に繋がることが伺えます。</p> <p>【評価できる点】</p> <p>・「アーカイブ」に力を入れ、事業を進めるために課題に向き合い、他施設との事業連携のための取組に前進したことを確認しました。</p> <p>・バリアフリー能に向けて関係者へ研修を行い、当日の持ち場での取り組みなどを研修することで、来場客への配慮や今後の更なる取組に繋がることが伺えます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・バリアフリー能やバリアフリー能関連事業については、障害がある方にとって、貴重な文化に触れ合う機会です。大規模改修に伴う休館もあるため、実施方法には検討が必要と思われると思いますが、違った方法で事業が実施されることを期待します。</p> <p>・大学講座については、複数の大学との連携を行い、工夫した授業を実施していることが伺えます。今後も継続して行われることを期待します。</p>	
			□職員向けに個人情報保護に関する研修を年1回実施	1回	実施			適切に実施しました。		
			■個人情報の具体的な取扱い方法について記載した「個人情報取扱いマニュアル」を整備	実施	実施			適切に実施しました。		
2 情報公開についての取組		■当財団の「保有する情報の公開に関する規定」に基づき財団事務局が窓口となり適切に対応	実施	実施	適切に実施しました。					
		■事業計画書・事業報告書を期日までにホームページで公開	実施	実施	適切に実施しました。					
3 人権尊重についての取組		□市/区主催の人権研修に積極的に参加	1回	未実施	日程が合わず、参加を見送りました。					
		□職場内研修で人権をテーマ化	1回	実施	長年開催しているバリアフリー能でのノウハウを蓄積、新任職員に研修を実施しました。					
4 環境への配慮に関する取組		■持ち帰りの推奨等により施設内で発生するごみの量の削減	実施	実施	2月より廃棄・分別ルールを見直し、貸館利用のごみ持ち帰りを徹底しました。					
		■チラシ/パンフレット印刷枚数の適正化	実施	実施※再掲	適切に実施しました。					
		■館内照明設備修繕時のLED化の推進	実施	実施	大規模改修を見据え、日常営繕の範囲で実施しました。					
		■館内換気の推進と快適な環境維持とのバランスに配慮した電力利用	実施	実施	コロナ感染症対策を優先し最大限の換気を実施しました。					
5 障害者差別解消		□「バリアフリー研修」開催による障害に対する意識の喚起とより実践的な対応スキルの具備	1回	実施	カルチャースタッフ、新任職員を対象にした研修で、視覚障害、聴覚障害について動画視聴及び対応実践練習を行いました。					
6 男女共同参画		■男性・女性の別なく職員が活躍する職場づくり	実施	実施	適切に実施しました。					
7 市内中小企業優先発注についての取組		■原則として業務委託と物品購入は横浜市有資格者掲載者或いは市内在住者/業者に発注	実施	実施	適切に実施しました。					
2 その他	1 保険及び損害賠償の取扱い	■施設賠償責任、動産総合、レジャーサービス施設の各種保険に加入	実施	実施	適切に実施しました。保険適用の事例はありませんでした。					
	2 関係法令等の順守	■業務の基準等の定めに応じて関係法令を順守	実施	実施	適切に実施しました。					
	3 市及び関係機関等との連絡調整	■事故や不具合時は即日報告とし、随時共有	実施	実施	コロナ感染症関連や設備不具合等、都度報告を行いました。					
		■「文化施設指定管理者連絡会議」他、必要な会議への出席	実施	実施	出席しました。					
		■掃部山公園管理者との日常的な情報共有	実施	実施	適切に実施しました。					
4 専門人材の育成	■専門人材研修(財団主催)、外部研修への参加	実施	実施							
5 大学連携の実施	■特別講座のコーディネート、登壇	実施	実施							

令和4年度 横浜能楽堂 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】 横浜能楽堂のプレゼンスを高めることもできた企画公演と、能楽堂や古典芸能に馴染みがない人に親しんで普及事業をバランスよく実施したことで、既存の能楽ファンも一定の満足を得られると同時に、新しいファンの獲得もできました。この2年で職員の約半数が入れ替わり、広報や運営に新たな視点が加わり、既存の取組みと合わせて効果を発揮しました。</p> <p>【課題】 普及事業については、新たな層を取り込むための様々な手法を用い、ターゲット毎に試しながら実施していく必要があります。休館に向けて、館に在る間にできることに効果的に取り組めます。</p>	<p>【評価できる点】 ・新型コロナウイルスの影響が続いた中、様々な手法を用いて、横浜能楽堂ならではの文化事業を行ったことが確認できます。企画については、様々な年齢層が能楽、狂言に親しみを得るために創意工夫しながら、次世代へ繋ぐためのワークショップや学校プログラム等の取組を評価します。 ・施設管理については、安心・安全な施設を運営するために保守・管理し、緊急的な修繕が必要な場合には、速やかに対応したことが確認できます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・令和6年1月頃からの大規模改修が行われ、古典芸能等をどのように伝え、休館中の横浜能楽堂をアピールしていくかが課題となります。横浜能楽堂ならではの工夫を行い、「古典芸能」の普及に向けて取り組んでいくか、分析してください。 また、これまで古典芸能に触れる機会がなかった方へ鑑賞等していただけるような取組(事業内容や広報方法等含む)について、検討を進め、すそ野拡大に取り組んでください。</p>